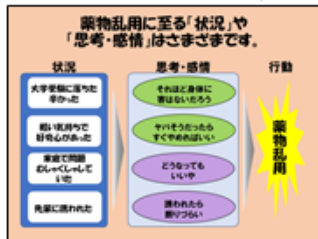


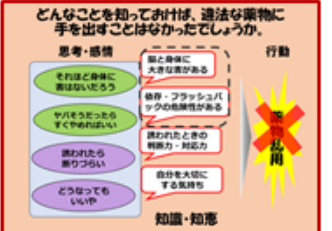
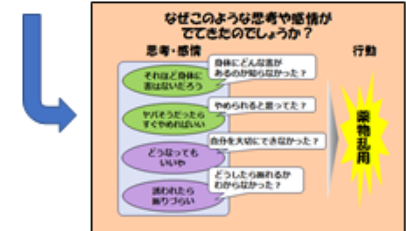
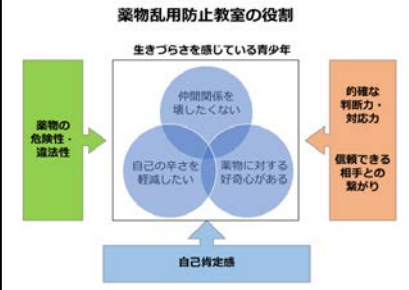
問題提起

薬物乱用者へのインタビューから



人はなぜ、薬物を乱用するのでしょうか？

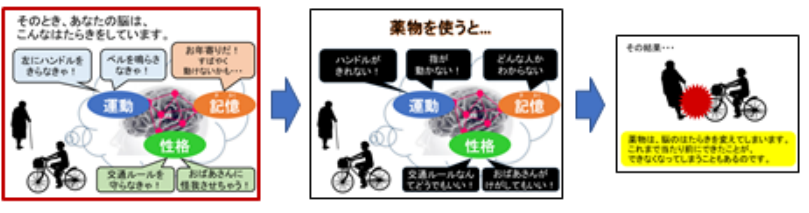
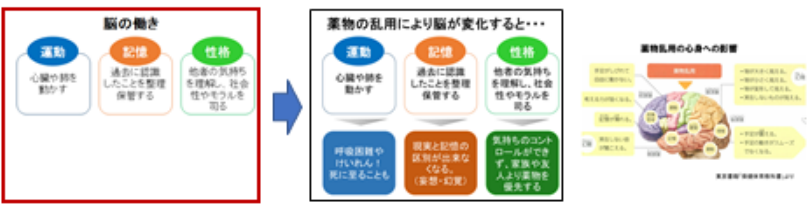
大学受験に失敗し、辛かった。
軽い気持ちで。
家庭で色々問題がありむしゃくしゃしていた。
先輩に誘われて断れなかった。



【目的】
小・中・高等学校において、専門的な知識を有する人の協力のもと薬物乱用防止教室が実施されている。こうした活動では、児童・生徒が授業に興味を持ち、内容の理解を深めるために、その導入部分が重要な位置を占める。
今回、高校生向けの授業において、生徒がより主体的に薬物乱用について考えられるよう薬物経験者へのインタビューを活用した問題提起型の教材を作成して授業を行い、生徒及び教員からのアンケートなどをもとに、理解度などの効果を調査した。

薬物の危険性

正常な脳の機能から考える

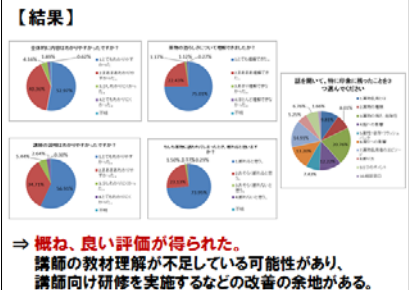


【方法】
平成29年度、28,819名の高校生に対して、問題提起型の教材(DVD+PPT+リーフレット)を使った薬物乱用防止教室を実施し、受講生徒へのアンケート調査を行った。

インタビューからの問題提起は、下記の順で進めた。

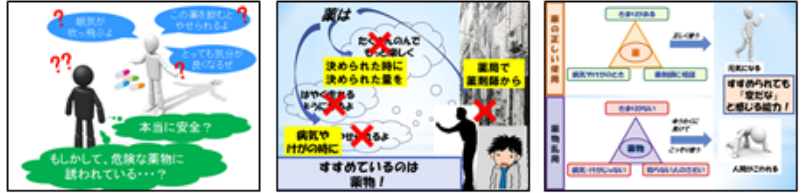
- 1) 薬物乱用に至る「状況」や「思考・感情」の推察
- 2) 「思考・感情」の背景にあった「認識」の推察
- 3) 仮に「認識」が正しいものであれば、「思考・感情」とそれに基づく「行動(薬物乱用)」は発生しなかつたのではないかと示唆

⇒受講生徒に対して、講義を受講する動機づけをする。



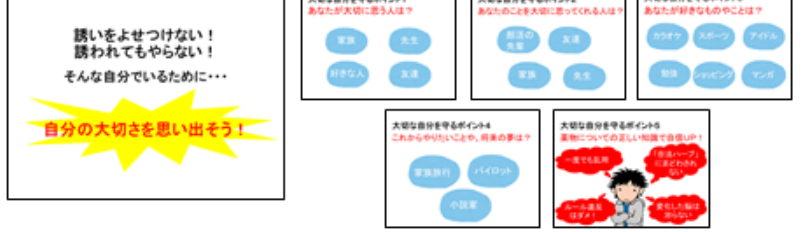
判断力

薬物から自分を守る① 「誘い、うそ」だと分かる力



自己肯定感

薬物から自分を守る② 大切な自分を守るための5つのポイント



受講生徒の感想文より抜粋

「実際に薬物乱用をして依存してしまっただけの人たちやその周りにいた人のお話を聞いたことがなかつたので、とても貴重な機会をいただいたと思いました。」

「(薬物経験者のインタビューで)『友達と先輩に誘われて』という人が何人もいて、自分の周りではないと信じていてもどうなるかわからないので、きっぱりと断るといことも忘れないようにしたいです。」

「(薬物経験者が)乱用に至った経緯が『友人に誘われた』『先輩に誘われた』『自暴自棄になっていた』というように、実際に私たちの身の回りに起こりそうなきっかけばかりで本当に恐ろしいと思った。」

【考察】
小・中学校でも薬物乱用防止の授業を受けている高校生にとっては、授業自体がイベント化し、内容もマンネリしているという意見を学校現場から聞くことがある。今回、導入部に薬物経験者のインタビューを用いたところ、受講生徒の感想文にあるように、授業を主体的に聴く・参加するための動機づけとして一定の効果があったと感じている。

※この活動は、厚生労働省「薬物乱用防止啓発訪問事業」として(株)小学館栗英社プロダクションが委託、実施しているものである。